第2節　社　　会

第１　本指導実践事例集の活用について

１　作成の基本的な考え方

⑴　本資料は、中学校学習指導要領及び埼玉県中学校教育課程編成要領・同指導資料・同評価資料の社会の趣旨を踏まえて作成したものである。その際、改訂の趣旨を生かし、社会の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、「知識・技能の活用」「言語活動の充実」「伝統や文化に関する学習の充実」「小･中学校の連携を図る学習」「社会参画に関する学習」「作業的･体験的な活動を取り入れた学習」の指導のポイントについて明確にした上で､それぞれ１事例ずつ実践を掲載した。

⑵　実践事例中に、「情報教育」「環境教育」「防災に関する教育」「図書館の利用」「資源やエネルギーに関する教育」「道徳教育」「ＮＩＥ」との関連について明示することによって、各学校で活用していただけるよう工夫した。

２　取り上げた内容

	学習方法の工夫	単 元 名 等	関連事項	実践事例の特色
事例1	**「知識・技能の活用を図る学習」** 活用の前提として、グラフや地図の読み取りを丁寧に行った学習を日頃から行う。	**（地理的分野）　⑴ エ** **世界の様々な地域の調査**	情報教育	主題設定に当たり、ウェビングマップを用いて知識に関連性をもたせた展開によって、知識・技能の活用を図った。
事例2	**「言語活動の充実を図る学習」** 発表原稿の作成等を通して、読み取ったことを解釈し調査結果をまとめる。	**（地理的分野）　⑵ ウ** **日本の諸地域** 「環境問題や環境保全から見た近畿地方」	環境教育 防災に関する教育	シンポジウムの場面を設定し、各グループの発表と聞き取りによって、言語活動の充実を図った。
事例3	**「伝統や文化に関する学習の充実」** 調査・見学・体験やインタビューなどを行い、歴史の学び方を学ぶとともに、思考力や表現力を高める。	**（歴史的分野）　⑴ イ** **身近な地域の歴史を調べる活動**	情報教育 図書館の利用	身近な地域の歴史を取り上げ、実際に調査活動を実施することにより、地域への関心が育てられ、学び方を学ぶ学習ができるようにした。
事例4	**「小・中学校の連携を図る学習」** 学習内容の系統性を踏まえ既習知識の活用や深化を図る。	**（歴史的分野）　⑹** **現代の日本と世界**	資源やエネルギーに関する教育 ＮＩＥ (Newspaper in Education)	適切な課題を設けて行う学習として構成し、小学校での学習を確認しながら小グループの調査発表を軸に学習を展開することによって、言語活動の充実を図った。
事例5	**「社会参画に関する学習の充実」** マニフェストの作成・模擬選挙の実施によって、主体的に政治に参加することの意義を考える。	**（公民的分野）　⑶ イ** **民主政治と政治参加** **「選挙の意義」**	道徳教育	将来の有権者として主体的に社会に参画する態度を養うことを目指して、模擬選挙という社会参加型の学習を展開した。
事例6	**「作業的・体験的な学習の充実」** ポスターセッション形式で模擬国際会議を開き、発表によって、お互いの成果を学び合う。	**（公民的分野）　⑷ ア** **世界平和と人類の福祉の増大**	環境教育	単元を通したテーマを設定して作業的・体験的な学習の充実を工夫して展開した。

３　活用に当たっての配慮事項

⑴　各学校では、本資料を参考にし、社会科の年間指導計画や単元ごとの指導計画と評価計画を見直し、計画的・組織的に指導に当たることが必要である。特に次の点に配慮する。

○　地域や学校の実態及び生徒の発達の段階や特性を十分考慮し、それを生かした授業を構成する。

○　学習課題の解決に向けて調べたり考えたりすることで結論を導き出すような問題解決的な学習を一層充実させる。

○　見学、調査、家庭学習など、家庭や地域との連携を深めた学習を計画的に行う。

○　学習評価の工夫改善を図り、生徒の指導に生かす効果的で効率的な評価を行う。

⑵　実践事例集としてより活用できるよう、ポイントとなる部分や関連する内容を枠で囲い明確にしているので、各事例の学習方法の工夫や実践事例の特色等を参考にして、本資料を役立てていただきたい。

第２　実践事例

事例１　**世界の様々な地域の調査　－知識・技能の活用を図る学習－**

中学校学習指導要領では、「世界の様々な地域の調査」について、「様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し，世界の地理的認識を深めさせるとともに，世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。」とある。本実践では、知識・技能の活用を工夫するとともに、情報教育の視点も踏まえて学習を展開した。

知識・技能の活用のポイント

○既習の単元において疑問に思ったことや興味をもったことなどを書き留めさせておく。
○ウェビングマップを用いて知識に関連性をもたせ、適切な主題設定につなげられるようにする。
○作成した地図やグラフ等、作業的な学習の成果を掲示しておき、常に生徒の目に触れて、振り返ることができるようにしておく。
○レポートの作成を通して、自分の考えや解釈を整理し、調査結果を分かりやすくまとめ、図表などを使い表現させる。

１　単元名　　地理的分野 ⑴エ　世界の様々な地域の調査

２　単元について

「世界の様々な地域の調査」は「世界の様々な地域」の「ア　世界の地域構成」「イ　世界各地の人々の生活と環境」「ウ　世界の諸地域」の学習において、世界の六つの州ごとに、基礎的・基本的な地理的知識・技能を習得させ、各州を大観したのちに、まとめとして実施する調査学習である。そこで、本実践では世界の様々な地域の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、生徒が関心をもつ主題を設定して地域的特色を理解させ、明らかにする学習を展開することとした。生徒が世界の地理的事象や課題を身近に感じ、世界の諸地域についてのイメージをもてるような学習を展開できるよう、世界各地の気候や生活、宗教、州レベルでの特色や自然環境などの知識、また、雨温図の読み取り、主題図と一般図の使い分け、統計の利用といった技能など、既習の知識・技能の活用を図ることを工夫した。

３　単元の目標と評価規準

世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
世界の様々な地域の調査とその地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	世界の様々な地域の地域的特色をとらえる適切な主題を設定し，世界の様々な地域の調査を行う際の視点や方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界の様々な地域の調査とその地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の様々な地域の調査について、地域的特色とともに、世界の様々な地域の調査を行う際の視点や方法を理解し、その知識を身に付けている。

４　指導計画と評価計画（8時間扱い）

時	主な学習活動・内容	・指導上の留意点　◎**知識・技能の視点**　○**情報教育**　評 評価	資料
1	○調べる内容について焦点化し、主題として設定する。 考えられる主題の例 ・インドの経済発展 ・韓国の食文化 ・中国～中華料理と自然環境 ・観光大国フランス ・ロシアの自然と環境 ・オーストラリアの鉱産資源 など	・調べたいという意欲をもつことができる主題を決めさせる。 **◎既習の単元で得た知識を整理し、明確な主題づくりにつながるようウェビングマップを作成する。** ・主題設定においては既習の学習内容はもちろん、地図帳やテレビ、新聞、買い物などの日常生活等の中から幅広く考えさせる。 ・生徒が主題を設定できない場合には、グループで話し合わせたり過去の主題一覧を示したりして、設定のヒントやきっかけを与える。 評 意欲的に主題を設定しようとしている。【関心・意欲・態度】 主題設定の手順 1　これまでの世界の諸地域の学習やニュースなどで関心をもったことから、キーワードを挙げる。 2　出てきたキーワードをもとに、ウェビングマップを作成していく。 3　出来上がったウェビングマップから特に調べたいことや、疑問に感じたことを主題として設定する。 4　主題設定が困難な生徒には、あらかじめ取り組みやすい内容（中国の紹介・世界の降水量など）をいくつか用意しておくといったことも考えられる。	・ウェビングマップ **【資料①】** ・地図帳 ・過去の主題の例
2	○調査のねらいを定め、どのような調査方法を行うかについて、調査の見通しを立てる。	・「なぜこの地域には、このような地理的事象が見られるのか」「なぜこの地域には、このような特色ある生活・文化が根付いているのか」といった問いかけを基にして課題を見いだし、その解決のための適切な資料を選択、収集できるようにする。 評 調査を行う際の視点や方法を多面的・多角的に考察し、調査方法や必要な資料を判断している。【思考・判断・表現】	

3 〜 7 （本時）	○主題を明らかにするために必要な資料と収集方法を吟味し、資料の収集、選択を行う。	・各種の地図や統計、百科事典、紀行文、インターネットからの情報、ＤＶＤや写真など調べる主題にふさわしい適切な資料を選択できるようにする。必要に応じてコンピュータ教室等も活用する。 ・調査計画書を作成し、作業時間を有効に計画的に使えるようにする。 評 地域調査を行う際の視点や必要な資料の所在　様々な地図の多様な活用の仕方、調査結果をまとめる際の基本的な記述の仕方について理解し、その知識を身に付けている。【知識・理解】	・調査計画書 **【資料②】**
	○調査のねらいにより、収集した資料を活用してその内容を読み取ったり、地図化したりする。	・収集した資料を的確に読み取り、地図を有効に活用して事象を説明するなど作業的な学習活動も取り入れ、資料の処理や分析を行う。 評 収集した各種の資料から有用な情報を適切に選択し、その地域的特色について読み解き、関連付けながら整理している。【技能】	
	○調査した結果を整理し、ふさわしい記述や説明の方法を考え、自分の考察を含めて、レポートにまとめる。	**◎統計資料の利用や主題図の作成、数値のグラフ化、分布の様子の地図化などの地理的技能の育成という観点を踏まえた指導を行う。** **○コンピュータや情報通信ネットワーク、GIS（地理情報システム）等を積極的に活用する。** ・調査結果を書くだけでなく、追究した過程や結果をまとめさせる。 評 調査結果を多面的・多角的に考察し、追究した過程や結果を適切に表現している。【思考・判断・表現】	・レポート **【資料③】**
8	○代表の生徒が発表し、それを見て各自でレポートの最終校正をする。	・各自の調査結果をクラスで分かりやすく発表させる。地図を有効に活用して説明したり、自分の解釈を加えて説明したりさせる。 **○プレゼンテーションソフトの活用や実物投影装置を用いての説明なども行う。** 評 調査結果を多面的・多角的に考察し、追究した過程や結果を適切に表現している。【思考・判断・表現】	

５　本時の学習（第７／８時）

⑴　本時の目標

世界の様々な地域の調査とその地域的特色に関して収集した様々な資料から、有用な情報を適切に選択して調べた結果を文章でまとめたり、グラフや表にして分かりやすく示したり、地図を活用して表現し、調査結果を多面的・多角的に考察し、追究した過程や結果を適切に表現する。

⑵　本時の展開

過程	学習活動・内容	・指導上の留意点　◎知識・技能の活用の視点　評　評価	資料
導入	1　前時までで行った調査活動について確認する。 2　本時の課題を把握する。	・前時までの調査活動の成果を何人かの生徒に発表させる。 **調査活動を通して分かったことをレポートにまとめよう**	・調査結果の資料
展開	3　レポートの構成を確認する。 レポートの構成例 ①タイトル…調べた内容が一目で分かる言葉で表現しよう。 ②調査の動機と目的…調べようと思った理由や、知りたいことを書こう。 ③調査方法…何をどんな方法で調べたのか書こう。 ④調査結果…調べたことを分かりやすい文章や地図、グラフ等を使って表現しよう。 ⑤まとめと考察…調べたことを簡潔にまとめよう。 ⑥感想…感想や今後の課題を書こう。 ⑦参考資料…参考にした資料や文献、ホームページなどの出典を書こう。	・文献やホームページの丸写しにならないように指導する。 ・たくさんのことを詰め込むのではなく、要点をしぼり、分かりやすくまとめられるよう助言する。	・レポート用紙
	4　主題図やグラフ、地図等を用いて見やすく分かりやすいように構成する。 5　レポートを完成させる。	**◎「世界の諸地域」までで学習した知識や技能を活用できるように、今まで学習してきた内容を復習し、まとめるイメージをもたせる。** ・調べた内容や資料から読み取ったことと自分の考えを述べる部分をはっきりと分けてまとめさせる。また、判断した根拠についても示させる。 評　調査結果を多面的・多角的に考察し、追究した過程や結果を適切に表現している。【思考・判断・表現】 ＜Ｂの生徒への手立て＞ ○複数のことを関連付けてさらに考察を深めたり、調査結果から見えてくる課題等についても記述したりするよう助言する。 ＜Ｃの生徒への手立て＞ ○まとめ方の見本となる例を示し、参考にして作成していくようにさせる。	・過去の作品例
まとめ	6　次回の授業内容を確認する。	・発表に向けて方法をよく考え、分かりやすい発表を行うように指導しておく。	

6　実践の工夫と考察

(1)　知識・技能の活用について

本単元の前までに学習した知識としては

世界の姿や位置関係、世界各地の自然や生活、宗教、州ごとの特色や自然環境

などがあり、学習した技能としては

雨温図の読み取り、主題図や一般図の使い分け、略地図の描図、グラフの特徴を生かした使い分けや読み取り、作成、地図帳の利用、統計の利用

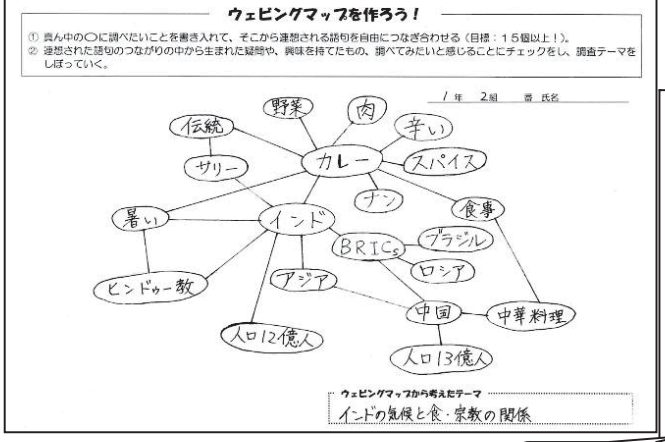
などがある。これらを活用し主題設定をスムーズに行うために、「世界各地の人々の生活と環境」「世界の諸地域」の学習を通じて疑問に思ったことや、関心をもったことをその都度、ノートに書き留めておいたり、ウェビングマップを作成し知識を整理したりすることでつまずきが少なくなった。また「世界各地の人々の生活と環境」「世界の諸地域」の学習で用いた主題図やグラフ等を積極的に活用し、資料活用の技能を高めさせた。

情報教育との関連

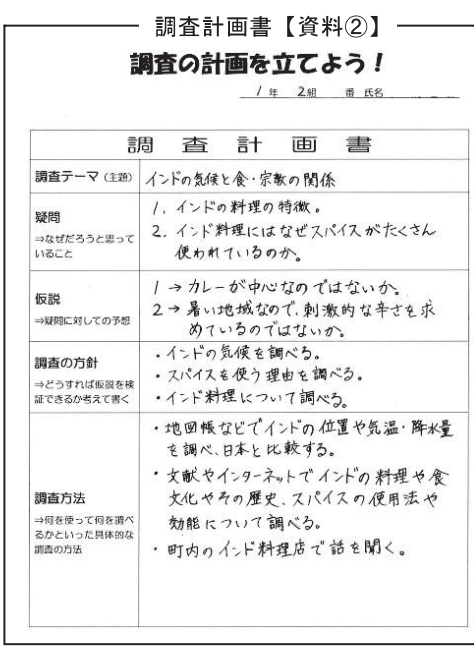
資料の収集や調査、レポートの作成の段階では、コンピュータによるグラフ化、地図化、地図ソフトの活用、インターネットでの資料収集などがある。また、電子メールを用いて現地の民間人、日本人学校、日本大使館、日本の各国大使館などから情報を得るということも考えられる。発表においては実物投影装置やプレゼンテーションソフト、電子黒板や大画面テレビなどを活用した発表会も考えられる。

(2)　生徒の作品

ウェビングマップ【資料①】



調査計画書【資料②】



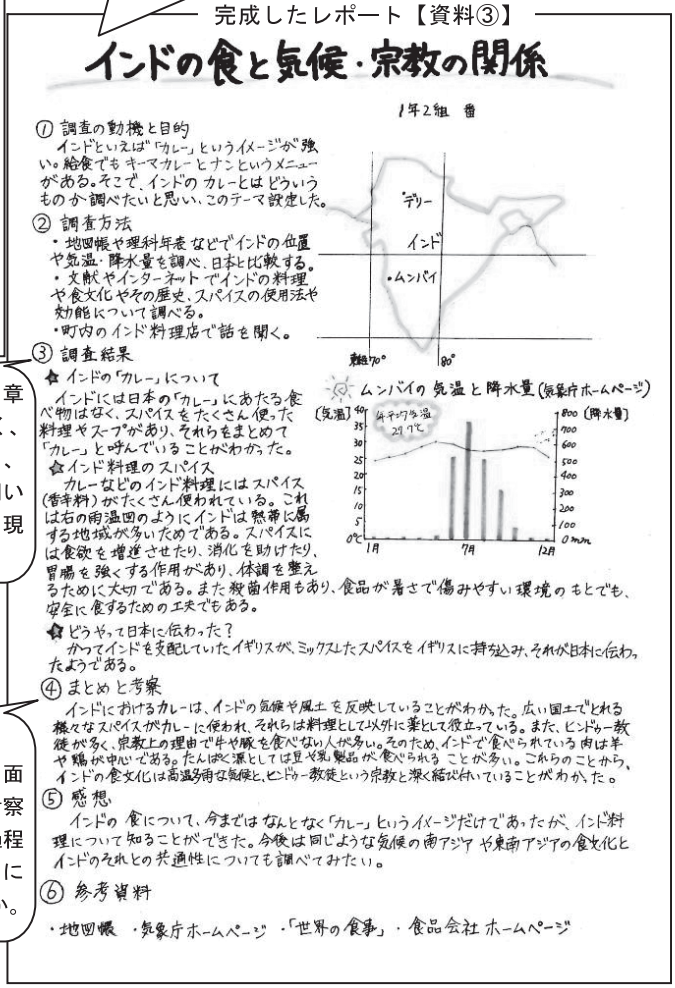
調査の計画を立てよう！

１年　２組　　番　氏名

調査計画書	
調査テーマ（主題）	インドの気候と食・宗教の関係
疑問 ⇒なぜだろうと思っていること	1．インドの料理の特徴。 2．インド料理にはなぜスパイスがたくさん使われているのか。
仮説 ⇒疑問に対しての予想	1 → カレーが中心なのではないか。 2 → 暑い地域なので、刺激的な辛さを求めているのではないか。
調査の方針 ⇒どうすれば仮説を検証できるか考えて書く	・インドの気候を調べる。 ・スパイスを使う理由を調べる。 ・インド料理について調べる。
調査方法 ⇒何を使って何を調べるかといった具体的な調査の方法	・地図帳などでインドの位置や気温・降水量を調べ、日本と比較する。 ・文献やインターネットでインドの料理や食文化やその歴史、スパイスの使用法や効能について調べる。 ・町内のインド料理店で話を聞く。

調査内容を分かりやすく表現したタイトルを設定させる。

完成したレポート【資料③】



インドの食と気候・宗教の関係

1年2組　番

① 調査の動機と目的
インドといえば「カレー」というイメージが強い。給食でもキーマカレーとナンというメニューがある。そこで、インドのカレーとはどういうものか調べたいと思い、このテーマ設定した。

② 調査方法
・地図帳や理科年表などでインドの位置や気温・降水量を調べ、日本と比較する。
・文献やインターネットでインドの料理や食文化やその歴史、スパイスの使用法や効能について調べる。
・町内のインド料理店で話を聞く。

③ 調査結果
☆インドの「カレー」について
インドには日本の「カレー」にあたる食べ物はなく、スパイスをたくさん使った料理やスープがあり、それらをまとめて「カレー」と呼んでいることがわかった。
☆インド料理のスパイス
カレーなどのインド料理にはスパイス（香辛料）がたくさん使われている。これは右の雨温図のようにインドは熱帯に属する地域が多いためである。スパイスには食欲を増進させたり、消化を助けたり、胃腸を強くする作用があり、体調を整えるために大切である。また殺菌作用もあり、食品が暑さで傷みやすい環境のもとでも、安全に食べるための工夫でもある。
☆どうやって日本に伝わった？
かつてインドを支配していたイギリスが、ミックスしたスパイスをイギリスに持ち込み、それが日本に伝わったようである。

④ まとめと考察
インドにおけるカレーは、インドの気候や風土を反映していることがわかった。広い国土でとれる様々なスパイスがカレーに使われ、それらは料理として以外に薬として役立っている。また、ヒンドゥー教徒が多く、宗教上の理由で牛や豚を食べない人が多い。そのため、インドで食べられている肉は羊や鶏が中心である。たんぱく源としては豆や乳製品が食べられることが多い。これらのことから、インドの食文化は高温多雨な気候と、ヒンドゥー教徒という宗教と深く結びついていることがわかった。

⑤ 感想
インドの食について、今まではなんとなく「カレー」というイメージだけであったが、インド料理について知ることができた。今後は同じような気候の南アジアや東南アジアの食文化とインドのそれとの共通性についても調べてみたい。

⑥ 参考資料
・地図帳　・気象庁ホームページ　・「世界の食事」・食品会社ホームページ

調査結果は文章記述だけでなく、地図やグラフ、表、写真等も用いて効果的に表現させる。

評価
調査結果を多面的・多角的に考察し、追究した過程や結果を適切に表現しているか。

(3)　まとめ

主題の設定からレポートが完成するまでの各段階において既習の知識・技能が活用できるようにするためには、それらが何なのかをはっきりさせておく必要がある。主題を決める段階で既習の知識・技能について確認しておくとよい。また、学習がスムーズに進むかどうかは主題設定による部分が大きい。主題を決める際に生徒の実態に応じ、クラス全体で調べる国は統一した上で、一人一人もしくは班ごとにテーマを設定し、それを調査していくといったことも可能である。また、まとめをレポート形式ではなくポスターや新聞を使うことも考えられる。実際に主題を設定するのが大変だったという声も多く聞かれたが、主題が明確に決定できた生徒はその後の調査も順調に進めることができた。

事例2　日本の諸地域　－言語活動の充実を図る学習－

中学校学習指導要領では、「日本の諸地域」の取扱いについて「地域の特色ある事象や事柄を中核として，それを他の事象と有機的に関連付けて，地域的特色を追究するようにすること」とある。本実践では、作業的・体験的な学習を通して言語活動の充実を工夫した。

言語活動の充実を図るポイント

○習得した知識や技能を活用して、事象の特色や事象間の関連などを考察し、その過程や結果を表現する学習を展開する。その際「解釈」「説明」「論述」等の言語活動を設定する。

○「調査プリント」に、調査内容を示すとともに、課題を追究する過程を提示する。これを基に発表原稿を作成する。

○調べたことをキーワードで示す「発表シート」にまとめさせる。そして、「シンポジウム」の場面を設定し、調査結果の発表や意見交換をする学習展開を工夫する。

1　単元名　　地理的分野　(2)ウ　日本の諸地域

2　小単元「環境問題や環境保全から見た近畿地方」について

「日本の諸地域」は、学習指導要領解説社会編（P47参照）に示された(ｱ)から(ｷ)の考察の仕方に基づき、中核とする地理的事象や事柄を、他の事象と有機的に関連付けて地域的特色をとらえる取扱が求められる。この小単元では近畿地方を取り上げ、「考察の仕方」の(ｴ)「環境問題や環境保全を中核とした考察」に基づいて構成する。近畿地方では「水瓶」として琵琶湖の果たす役割が大きい。これに、大阪大都市圏や阪神工業地帯などを関連付け、琵琶湖の環境保全の取組が重要な課題となっていることを考えさせる。

3　単元の目標と評価規準

日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について(ｱ)から(ｷ)の考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。

①社会的事象への関心・意欲・態度	②社会的な思考・判断・表現	③資料活用の技能	④社会的事象についての知識・理解
日本の諸地域の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	日本の諸地域の地域的特色を、自然環境、歴史的背景、産業、環境問題や環境保全、人口や都市・村落、生活・文化、他地域との結び付きのいずれかを中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	日本の諸地域の地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の諸地域について、自然環境、歴史的背景、産業、環境問題や環境保全、人口や都市・村落、生活・文化、他地域との結び付きのいずれかを中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

4　指導計画と評価計画（32時間扱い）

小単元名【時間】	小単元の目標　（考察の仕方）	主な学習活動	重点を置く評価の観点 ①	②	③	④
自然環境から見た**九州地方**【５時間】	○自然環境に関する特色ある事象を中核とし、人々の生活や産業との関係や防災対策の重要性を考えさせる。（**ア**）	・資料から読み取ったことを基に自然環境と産業、生活との関係を考える。	●			●
人口や都市・村落から見た**中国・四国地方**【４時間】	○人口分布や動態等に関する特色ある事象を中核とし、人々の生活や産業との関係、過疎問題について考えさせる。（**オ**）	・教師が提示した資料から読み取ったことを基に地域的特色を記述する。			●	●
環境問題や環境保全から見た**近畿地方**【４時間】	○琵琶湖をめぐる環境問題や環境保全の取組を中核とし、産業や人々の生活などとの関係や環境保全の取組の重要性を考えさせる。（**エ**）	・環境保全の取組の重要性を多面的・多角的に考察し意見交換する。		●		●
産業から見た**中部地方**【５時間】	○農業や工業の特色ある事象を中核とし、自然環境や社会的条件との関係やその変化について考えさせる。（**ウ**）	・情報通信ネットワークや図書室を活用して情報を収集、選択して調べる。			●	●
他地域との結び付きから見た**関東地方**【５時間】	○交通網に関する特色ある事象を中核とし、物資や人々の移動との関係、他地域との結び付きによる地域の変容について考えさせる。（**キ**）	・多面的・多角的に考察した過程や結果を記述し図表にまとめ説明する。		●		●
生活・文化から見た**東北地方**【４時間】	○伝統産業に関する事象を中核として、他地域との結び付き、都市化や国際化による生活・文化の変容について考えさせる。（**カ**）	・資料から適切に読み取ったことを地図や図表にまとめる。			●	●
歴史的背景から見た**北海道地方**【５時間】	○歴史的背景や開発に関する特色ある事柄を中核とし、他地域との結び付きや自然環境との関係について考えさせる。（**イ**）	・多面的・多角的に考察した過程や結果を地図にまとめ発表する。	●	●		●

内容のまとまりごとに観点別評価を総括する際に，内容のまとまりを構成する小単元ごとに重点を置く観点を設定し，評価の重点化を図ることが考えられる。

資料活用の技能や考察の仕方、表現の仕方について生徒の習熟の度合いを考慮し、内容のまとまり全体を見通して系統的に指導できるよう学習活動を工夫する。

○系統的な指導の例

資料の収集、選択、活用について「近畿地方」の学習では、教師が準備した資料から選択して活用させ、「中部地方」の学習で、情報通信ネットワークや図書室を活用し、生徒が資料を収集し必要な情報を選択して活用させる。

小単元「環境問題や環境保全から見た近畿地方」の指導計画と評価計画（４時間扱い）

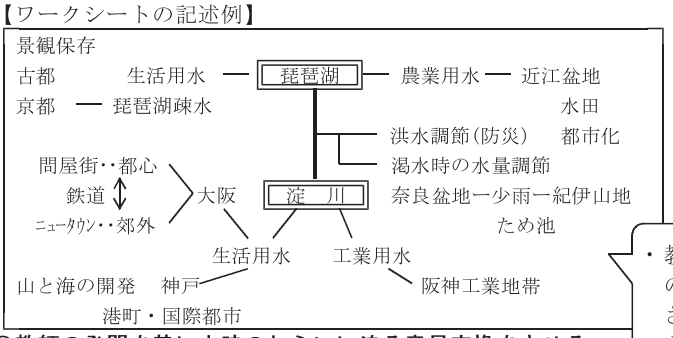
時	主な学習活動・内容	・指導上の留意点　◎言語活動充実の視点　評 評価	資料
1	○地図から地形や主な都市の分布に着目して、近畿地方の様子をとらえる。 ○琵琶湖の環境保全の問題を主題図、新聞記事などの資料を関連付けてとらえる。 近畿地方の人々にとって、琵琶湖の環境保全が重要である理由を追究しよう	・大阪大都市圏の人々にとって琵琶湖が水源になっており、淀川で結ばれていることに気付かせる。 評主題図や新聞記事などの資料から読み取ったことを基に琵琶湖の環境保全の問題を理解しているか、ワークシートの記述内容を分析して評価する。【知識・理解】	・地図帳 ・掛け地図「近畿地方」 ・琵琶湖の環境問題に関する主題図や新聞記事
2	○琵琶湖・淀川の水を利用している地域の様子をグループで分担し調べ、「調査プリント」にまとめる。	・資料は、教科書や地図帳、教師が準備した資料の中から生徒に選択させる。 ・琵琶湖周辺、大阪、京都、神戸、阪神工業地帯と琵琶湖の水を利用していない奈良盆地を取り上げて調べさせる。	・教科書 ・地図帳 ・情報通信ネットワークを活用して収集した資料 ・図書館の資料（統計資料、百科事典等）
3	○グループごとに調べたことを基に「発表原稿」をまとめ、キーワードを「発表シート」に書く。	評都市化、産業の発達に伴い水需要が増加し、淀川水系の水資源管理が課題となっていることを考察しているか、「発表シート」や「発表原稿」の記述内容を分析して評価する。【思考・判断・表現】	
4（本時）	○「琵琶湖の環境保全シンポジウム」を場面設定し、調査結果を発表し合い、琵琶湖の環境保全について意見交換する。 ○琵琶湖の環境保全が重要である理由について考えたことを、自分の言葉でまとめる。	**◎「シンポジウム」を場面設定し、各グループの発表から学び合うとともに主体的に意見交換する意欲をもたせる。** ・各グループの発表を基に、琵琶湖の環境問題を都市化や産業の発達などと関連付けていく中で、近畿地方の地域的特色をとらえさせる。 大阪大都市圏の人々の生活用水、阪神工業地帯の工業用水は、琵琶湖、淀川水の水に頼っている。水質が悪化すると人々の生活や産業に影響が大きく、環境保全が重要。 評都市圏の拡大、産業の発達などによる水需要の増加、環境負荷の増大と関連付け、琵琶湖の環境保全が重要となる理由を考察しているか、ワークシートの記述内容を分析して評価する。【思考・判断・表現】	・各グループが作成した「発表シート」 ・掛け地図 ・写真パネル

５　本時の学習（第４／４時）

⑴本時の目標

琵琶湖の環境保全が大切な理由を、都市圏の拡大や産業の発達などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、意見交換を通して持続可能な社会の構築のためには環境保全の取組が大切であることについて考える。

⑵　本時の展開

過程	学習活動・内容	・指導上の留意点　◎言語活動充実の視点　評 評価	資料
導入	1　本時の課題を把握する。 「琵琶湖の環境保全シンポジウム」を開き、琵琶湖の環境保全が必要な理由を考えよう 2　発表の仕方、聞き方について教師の説明を聞く。	・話し手にはキーワードを指しながら発表させ、聞き手にはキーワードをワークシートに記入させ事象間の関連を整理させる。	
展開	3　各グループの調査結果を発表する。 ①琵琶湖周辺　②大阪 ③京都　④神戸 ⑤阪神工業地帯　⑥奈良盆地 調査結果の発表 4　琵琶湖の環境保全が必要な理由について、考えたことを意見交換する。	**◎発表シートで地図やキーワードを示すことで、聞き手に分かりやすく説明を伝える。** **◎聞き手は、各グループの発表ごとにキーワードを聞き取らせ、結び付きをとらえてワークシートにまとめさせる。** 【ワークシートの記述例】  **◎教師の発問を基に本時のねらいに迫る意見交換をさせる。** ○発問例 ・どうして近畿地方の水需要が増加しているのだろうか？ ・琵琶湖や淀川の水質が悪化する原因は何だろう？ ・水質の悪化が進むと、どのような影響があるだろう？ ・教師は、事象間の関連をとらえさせるために、必要に応じて各班の発表内容の補足説明をする。	・掛地図「近畿地方」 ・発表シート ・ワークシート ・写真パネル「大阪」「京都」「神戸」

展開	5　学習を振り返り、琵琶湖の環境保全が必要な理由を自分のことばでワークシートに論述する。 「発表シート」を使った発表	評　都市圏の拡大、産業の発達などと関連付け、水需要の増加や環境負荷の増大などにより琵琶湖の環境保全が必要であることを考察し、ワークシートに記述している。 【思考・判断・表現】 ＜Ｂの生徒への手立て＞ ○一つのことと関連付けて記述している生徒に、複数のことを関連付けて考察を深めるよう助言する。 ＜Ｃの生徒への手立て＞ ○都市圏の拡大や産業の発達などと関連付けて考察していない生徒に、「誰がどのような目的で水を使うのか」を考えて記述するよう助言する。 ・道徳の内容項目4-(2)「自然愛護」との関連を図る。	・ワークシート ・助言する際、発表内容のメモを利用して、複数の事象が関連していることに着目させる。
まとめ	6　近畿地方の地域的特色について、教師の説明を基に整理する。	・各グループの発表を基に、琵琶湖の環境保全の問題を中核として都市化や産業の発達などと関連付けて近畿地方の地域的特色を整理する。	・地図を活用し、位置や分布、事象間の関連などを説明する。

6　実践の工夫と考察

(1)　言語活動の充実を図るための工夫

☆思考を深める学習展開の工夫	☆具体的な手立て
資料から読み取ったことを解釈し、調査結果をまとめる。	○発表原稿の作成 ・「調査プリント」で分担した項目についてに発表原稿を作成。 ○「発表シート」の作成 ・発表内容のキーワードを示す。 ・必要に応じて図を示す。
⇩	
事象の特色や事象間の関連を説明する。	○「シンポジウム」の場面設定 ・「発表シート」を使い説明する。 ・説明を聞き、事象間の関連をワークシートにまとめる。
⇩	
各グループの発表を基に考察したことを意見交換する。	○意見交換 ・教師の発問を柱にして、意見交換をして、思考を深める。
⇩	
考えたことを自分の言葉で論述する。	○論述 ・教師が評価を指導につなげる。

環境教育、防災に関する教育との関連

環境教育との関連として、本実践では「環境問題や環境保全を中核とした考察」を通して、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることを考えさせる。

防災に関する教育との関連として、淀川水系の水資源管理と関連付け、渇水時の水資源確保や増水時の水量調節により洪水を防ぐなどの役割を果たしていることを取り上げる。

☆生徒のワークシートの論述例（第４時）

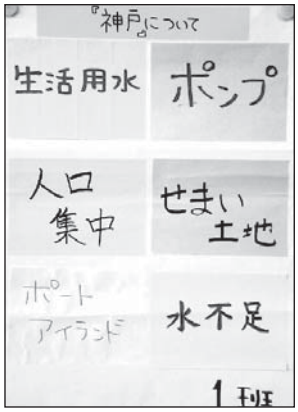
琵琶湖の水は湖周辺だけでなく、淀川を通って大阪大都市圏の人々の生活や産業を支えている。都市圏の拡大による人口増加や産業の発達により、水の需要が増加している。安心して水を使うことができるよう琵琶湖の環境を守ることが必要である。

(2)　資料について

調査プリント(第２時)

学習日 11月 1日
地域的分野　環境問題や環境保全から見た近畿地方
2年　組　番
追究テーマ　琵琶湖の環境保全が重要な理由を調べよう
1　調べる地域・ことがら
滋賀県
2　主な水利用
「どのような水の利用が多いのだろう？」
農業用水
「どこから水を得ているのだろう？」
琵琶湖
3　水の利用に関わる地域の様子
「なぜ、そのような水の利用が多いのだろう？」
琵琶湖の周りに田が多いから。
4　地域の特色を追究してみよう
「この地域は、どのような特色があるのだろう？」
○地域の自然の様子
○特色となる地域の様子
○地域が抱える問題
★考察　調べた地域の人々にとって、琵琶湖の環境保全の取組が大切な理由を考えよう

発表シート(第３時)



発表する内容のキーワードや簡単な図などを書き、それを１枚の模造紙に貼り合わせた。

調査プリントは、水利用の用途をとらえ、用途に関わる地域の様子、地域の地理的特色と課題を関連付けて追究できるように調査項目を構成した。

(3)　まとめ

生徒の記述を見ると、概ね大阪大都市圏の人口増加や産業の発展に伴い水需要が増加していることや、琵琶湖と淀川に水源を頼っているをとらえて論述していた。発表内容をメモしたワークシートを見ると、キーワードを適切に書き取れている生徒が多かった。意見交換の時間は十分には取れなかったが、琵琶湖の水利用の状況や課題などを整理することができた。以上の点から、本実践の手立ては言語活動の充実を図り、本小単元のねらいを達成する上で効果的であったと考える。

事例3　身近な地域の歴史を調べる活動　－伝統や文化に関する学習の充実－

中学校学習指導要領では、「身近な地域の歴史を調べる活動」について、「計画的に実施し,地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに,人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際,博物館,郷土資料館などの施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること」とある。本実践では、近世の草加を題材に現地調査を実施し、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高める学習を展開した。

1　単元名　歴史的分野⑴イ　身近な地域の歴史を調べる活動

2　単元について

今回の歴史的分野の改訂の要点の一つとして、「様々な伝統や文化の学習の重視」がある。特に本単元において、「具体的な事柄を通して受け継がれてきた伝統や文化への関心を高める」とされ、居住地域や学校所在地域を中心に、博物館等の施設や地域の人々の協力を考慮しながら、生徒による「調べる活動」を行い、具体的な歴史的事象から時代の様子を考え、歴史の学び方を身に付けさせることが求められている。

県内には、各街道の宿場として発展した地域や大消費地江戸と商品供給地として結び付いていた地域が多く、人々の生活のあとが多く残されている。特に草加は、江戸時代に整備された日光街道の宿場町として形成された町であり、江戸近郊の農地として新田開発などが盛んに行われた地域で、地名や寺社、石碑や石仏などにその歴史を知ることができる。これらの調査を通して、歴史の担い手としての農民や町人の活躍に注目させ、地域の歴史から歴史に興味をもち地域を愛する気持ちを高めるとともに、調査・まとめ・発表という歴史の学び方を身に付けさせることができると考える。

伝統や文化に関する学習の充実を図るポイント

○小学校での学習との関連に留意する。
○身近な歴史上の人物を取り上げることに留意する。
○民俗学、考古学の成果の活用や、博物館、郷土資料館、地域の人材の活用を図る。
○調査・見学・体験やインタビューから資料を収集し、結果をまとめ、発表する等の活動を通し、歴史の学び方を学ぶとともに、思考力や表現力を高める学習とする。
○地域に誇りをもち、地域に生きる一員としての自覚を高めるよう配慮する。

伝統や文化への関心は、歴史の中で現在の自分たちにもつながっていることを実感させることで高められる。ポイントとして５点あげたが、これらを生かすためには、身近な地域を取り上げる学習が最適である。その際、どの時代のどんな歴史的事象や人物を地域の歴史として取り上げるかを研究し効果的に扱う。

また、時代を特定せずに、地域の歴史全般を取り上げる学習も考えられる。この他にも、祭りや民俗芸能、工芸品、農産物、商業施設など他分野との関連を図ることで、より効果的な学習になる。

3　単元の目標と評価規準

身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統と文化に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。	身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域の具体的な事柄と我が国の歴史との関わりを考察し、適切に表現している。	身近な地域の歴史に関する様様な資料を収集し、読み取ったり年表や報告書などにまとめたりしている。	身近な地域の具体的な事柄との関わりの中で、我が国の歴史を理解している。

4　指導計画と評価計画（９時間扱い）

時	主な学習活動・内容	・指導上の留意点　◎伝統や文化の視点　評 評価	資料
1（本時）	○現在の地図と昔の地図を比べ違いや変わらない点、分かることや疑問点を見付ける。 ○碑文から新田地区の地名の由来について読み取る。	・自宅や学校の位置や土地の変化、また変化の少ない場所などを取り上げ、地域に関する関心を高める工夫をする。 ・碑文については、新田開発に関する部分だけを理解させる。 **◎地名から自分たちの町の歴史についての発見をする。** 評 地図を活用し、地域の変化について読み取るとともに、碑文の内容の概略を読み取ることができる。【技能】	・市町村史・地形図 ・市のパンフレット 県立文書館には各時期の地形図、迅速測図が所蔵され、写しを入手することができる。
2	○調査する石碑や石仏を確認する。 ○江戸時代の年号、十干十二支について簡単な知識を得る。 ○学習課題を設定する。 地域の石碑や石仏などから、江戸時代のわたしたちの町を調べよう	・石碑や石仏などがある場所の地図を準備し、どの地域の調査を実施するか決めさせる。 （河川と河岸、街道と宿場、新田開発、用水・排水路、史跡・文化財など地域の特色にあわせた課題を設定させる。） 評 地域の調査に積極的に参加しようとする。【関心･意欲･態度】	・調査説明資料１，２ 6(2)の資料を参照 ・石碑、石仏写真 ・地形図
3 4	○グループで現地調査を実施し、資料を収集する。 ・寺社・史跡 ・地域の集会所 ・図書館・博物館・資料館 ・市史編纂室、生涯学習課など ・地域の史談会会員の方々	・課題にあわせて現地での調査やインタビューなどを行い、発表内容を考えながら、様々な方法を使い記録させる。 ・事前に連絡等が必要な場合は、確実に行わせるとともに、調査時の言葉遣いや写真撮影、コピー、文化財の扱い方など注意をさせる。 評 調査課題にあわせた調査場所やインタビュー内容を考え、調査をし記録している。【思考・判断・表現】 **◎現在も大切に保管されていることから地域の人々の思いを知る。**	・調査シート ・地形図 文化財保護課などに連絡をし、協力を依頼することも考えられる。

5	○調査して見付けた石碑や石仏などを整理、分類する。 ○石碑や石仏の意味を調べ、江戸時代の町の様子や人々の生活の様子を考える。	・見付けた石碑や石仏の文字や像から、時代や内容などの情報を読み取らせ、製作された意図を調べさせる。その際、ＰＣや学校図書館などの利用も積極的に行わせる。（ＨＰの情報を使用する場合は適切な利用を行わせる。） 評 文字や像の形から、時代や分類を読み取っている。【技能】	・調査シート 整理や発表準備などでも、地域や資料館、博物館などの人材の積極的な活用を図る。
6 7	○発表方法・内容を検討し、分担・役割を決定する。	・調査した内容のまとめをつくらせるとともに、分かりやすい発表の方法を考えさせる。 評 江戸時代に地域に住んだ人々の生活を考え、その様子を適切にまとめている。【思考・判断・表現】	
8 9	○グループに分かれ、発表を行う。 ・発表は一つのグループをＡＢ二つに分けて、Ａが１時間目に発表し、Ｂは発表を聴き、評価する。２時間目は入れ替える。 ○課題についてまとめを行う。	・お互いの発表内容の良い点や改善点をあげさせ、次の学習へ生かすようにさせる。 ・江戸時代の人々の生活を知り、近世社会について適切なイメージをもつようにさせる。 評 江戸時代の農民の生活を記述し、発表している。【思考・判断・表現】 評 他のグループの発表のよい点や改善点を、適切に評価している。【関心・意欲・態度】	・発表評価シート 6(3)横の資料を参照 実際に地域の文化財の管理や供養などを行っている方からお話をいただき、評価していただくことも考えられる。
	江戸時代の人々は様々な願いをもって生活し、それが今に伝わっていることが分かった。	**◎江戸時代から現在へと続く、人々の生活の様子と地域に対する思いを感じさせる。**	

5　本時の学習　（第１／９時）

(1)　本時の目標

地域の古い地図と現在の地図を比べ、河川や街道、地名などから分かることや疑問点などをあげ、地域の様子ついて考がえ新田地区の成り立ちについて理解する。

(2)　本時の展開

過程	学習活動　・　内容	・指導上の留意点　**◎伝統や文化の視点**　評価	資料
導入	1　小学校での学習の復習をする。 ・神社、寺院、祭りなど ・河川と用水路、河岸、街道の名前 2　地形図について確認する。 3　本時の課題を把握する。	・小学校での学習事項について、確認をする。 ・地形図の特徴について、地理学習の復習を行う。 (50年ほど前の地形図であれば、江戸時代後期の土地の様子をまだ多く残している地域が多い。江戸期の古地図がある場合は、それも使うことで、さらに多くの気付きが出てくる。)	・小学校白地図など ・地形図
	現在の地形図との古地図や 50 年前の地形図を比べ、碑文から昔の草加の様子を考えよう		
展開	4　分かることと疑問点を分けてグループで発表する。 ・土地利用の変化 →田畑が住宅地になった。 ・地名などの変化 →～新田が～町に変わった。 ・河川、用水等の流れ →河川は変わらないが、用水路がなくなっている。 ・古くからの街道や新しい道路 →新たに多くの道路ができた。 ・神社や寺院などの位置 →変わらない場所にある。 5　碑文を読んで、大まかな内容や時代を考える。 ・碑が建てられた時期と理由 ・新田開発が行われた時期 ・開発の様子と地名の由来 6　その他の地名についても確認して、人名が付けられた理由を考え、発表する。 ・清右衛門新田→清門町 ・善兵衛新田→新善町 ・伝右衛門川→伝右川	・自分の家や学校周辺など、身近な場所を見付けさせて興味・関心を高める。 ・地理学習での身近な地域の学習の内容も踏まえて見付けさせる。 評 興味・関心をもって地図の読み取りができるとともに、様々な変化や変化の少ない事柄を整理しながらまとめている。【資料活用の技能】 ＜Ｂの生徒に対する手立て＞ 変化の内容をそれぞれ関連付けて、考察できるように助言をする。 ＜Ｃの生徒に対する手立て＞ 地図の読み取りが難しい生徒に対しては、分かりやすい場所の写真などを準備し、いくつかを確認させてから読み取りを行わせる。 ・地理で学習した内容については、簡単に復習する。 ・意見の中から、近世の学習として取り上げるものを確認する。 ・近現代の学習や公民で触れられるものは、その旨を説明する。 **◎新田開発に関する碑文内容から、この場所が江戸時代はじめの新田開発に関係した地域であり、人名をとったものであることを理解させる。** ・５の学習活動を踏まえて他の地名についても同様に考えさせる。 ・伝右川については、この地域に沼地が多かったことを碑文の中から考えさせることで、排水路の必要性を理解できるよう指導する。	・ワークシート ・写真 この碑の横には読み下し文がついている。
まとめ	7　本時の学習をまとめる。 ・ワークシートに本時の学習のまとめを記入する。	・神社などを調査することで、江戸時代の土地や人々の生活の様子を知ることができる可能性があることに気付かせる。	

6　実践の工夫と考察

(1)　地域の学習を通し、伝統や文化への関心を高めるために

小学校３，４年…身近な地域や市（区、町、村）の調査

地域の産業や生活の理解
＜地域社会の一員＞

生活の変化、先人の働き
＜誇りと愛情＞

新しい視点

野外での観察や地域調査

・地域的特色・課題
＜地域の発展に努力＞

伝統や文化の特色
＜歴史に対する愛情＞

地理的・歴史的事象を多面的・多角的に考察、適切に表現

地域の課題や将来像・現代社会と文化

情報教育・図書館の利用との関連

情報教育との関連として、ＨＰの利用があげられる。個人のＨＰなどの情報については信頼性が低いものがあり、慎重な利用が必要であるが、各博物館や資料館のＨＰなどは、所蔵品の紹介や説明、地図などを入手できることがあり便利である。使用には許諾が必要なものもあるが、その利用について指導する機会にもなると考えられる。

図書館教育との関連については、レファレンス機能の利用が考えられる。多くの図書館で実施している資料や情報を求める利用者に対する文献の紹介や提供などの援助で、本の紹介だけでなく、調査の方法や情報の収集などについて相談ができる。また、資料を見付けた後も活用について説明を受けることができる。

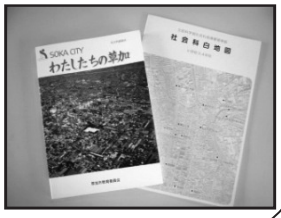
(2)　資料について　　**調査説明資料１**

A	新栄町　稲荷神社	地蔵、庚申塔、青面金剛、力石など
B	長栄町　天神社	参拝碑、従軍碑、青面金剛など
C	新善町　西光院	地蔵、馬頭観音、巡拝塔など
D	清門町　稲荷神	理記念碑
E	金明町　氷川神	大きな誠
F	旭町　駐車場	庚申塔
a	新栄町　公民館	
b	長栄町　綾瀬川	
c	長栄町　松森稲神社	えない）
d	原町　稲荷神社	青面金剛
e	金明町　宅地内	慰霊碑あり　（家の人に声をかける）
f	旭町　天神社	開発碑　力石

地区の調査ポイントをいくつか挙げて、Ａ～Ｆ（比較的多くのものがある）とａ～ｆ（調査対象が少ない）をセットにして調査させる。その場で調査できるものもいくつか挙げておくと、比較的容易に見付けることができる。一人に一つずつ調査対象があることが望ましい。

身近な地域の歴史を取り上げ、実際に調査活動を実施することにより、地域への関心が育てられ、歴史により具体性と親近感をもたせることが期待でき、学び方を学ぶことができる。

小学校での調査学習との関連を図り、中学校では新しい視点で観察や調査を実施する。その際、地理的分野と歴史的分野の連携を踏まえ、多面的・多角的に考察し、表現する能力を育てるよう工夫する。また、その学習の公民的分野との関連についても配慮する。



（右は草加市内の小学校で使用している副読本と白地図）

地域を探して、身近な江戸時代のものを見付けよう　　２年　　組　　番

①道標　②青面金剛　③庚申搭　④力石　⑤馬頭観音　⑥地蔵尊　⑦巡拝搭

①里程（距離）が彫られています。途中の大相模不動尊（越谷）までの里程も彫られてい
②多くは何本かの手に様々な道具を持ち、顔つきの怖い像が彫ってあります。像の下に猿が
③庚申と彫ってあるものや猿の彫り物があります。②と一緒のものもあります。
④丸い石が境内にあって、重さが彫ってあればこれです。
⑤頭に馬頭の冠があり、怖い表情の観音像。文字で書かれているものと像が彫ってあるもの
⑥表情が穏やかな、お地蔵様。赤や白の布がかかっていることがあります。
⑦各地の札所や月山や羽黒山などの地名が彫ってあります。

調査できるものの写真などを入れて、簡単な説明資料を作成しておく。生徒は書かれている文字や像を見て判断をする。西暦と年号の照合表などは別に用意する。これらの作成時期を整理することで、当時の生活の様子が分かる。

(3)　まとめ

生徒にとって近世は遠い過去であるが、学校周辺の地域にも当時の生活を示す石仏などが残っていることに驚きがあった。また、貧しく、生きるのに精一杯だと先入観を抱いていた農民の生活が、今と同様に娯楽を求めたり、生活を楽しんだりしたことを読み取り、近世のイメージを新たにした生徒が多かった。石碑の中には、現在でも地域に多い名字が見られ、中には自分の先祖を見付けた生徒もいて親近感をもったようだ。

この地域調査によって、江戸時代の民衆についての理解が深まり、地域に生きる自分たちの存在を、現在に続く歴史の流れの中で意識することができた。また、歴史の学び方を学ぶ力を付けることができたと考えられる。

調査シート

事例４　現代の日本と世界　－小・中学校の連携を図る学習－

中学校学習指導要領解説では、「現代の日本と世界」について、「第二次世界大戦後から冷戦の終結ごろまでの歴史を扱い，我が国の現代の特色を，世界の動きとの関連に着目して学習させる」とある。本実践では、適切な課題を設けて行う学習として構成するとともに、単元の導入部分で小・中学校の連携を図る学習を工夫した。

１　単元名　　歴史的分野　(6)現代の日本と世界

２　単元について

学習指導要領の改訂では、近現代の学習の一層の重視を打ち出し、「近現代の学習の重視とは，必ずしも学ぶ事象の増大や詳細化を意味するものではない。むしろ，生徒にとって理解しにくい面をもつ近現代の学習においては，具体的な事例を取り上げたり，思考や表現を重視した学習を進めたりしてその大きな展開をつかませるなど，扱い方を一層工夫することが重要である」とされている。これを受けて本実践では、適切な課題を設けて行う学習として構成し、小グループの調査発表を軸に学習が展開するようにした。また、言語活動の充実の観点から、単元の課題設定の場面、グループによる調査発表、時代を大観し表現する学習を中心に、「読み取り、解釈、説明、論述、討論」といった活動の充実を図った。

３　単元の目標と評価規準

○　冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。

○　高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを通して、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。

小・中学校の連携を図るポイント

○事前調査を行い、生徒の既習の知識や技能を確認する。生徒が卒業した小学校の教諭と連携を図るとさらに良い。
○学習内容の系統性を踏まえ既習知識の活用や深化を図る。
○繰り返し出てくる学習内容については扱い方に注意する。
（例）『学習指導要領解説・社会編』にみる「領土」の扱い

小学校第５学年　我が国の国土を構成する北海道，本州，四国，九州，沖縄島，北方領土などの主な島の名称と位置，我が国の領土の北端，南端，東端，西端，日本列島の周りの海を取り上げ，地図帳や地球儀などで具体的に調べ，白地図などに書き表すことにより，我が国の位置と領土を具体的にとらえる。

地理的分野「領域の特色と変化」については，我が国の海洋国家としての特色を取り上げるとともに，北方領土が我が国の固有の領土であることなど，我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすること。

歴史的分野　「領土の画定」では，ロシアとの領土の画定をはじめ，琉球の問題や北海道の開拓を扱う。

公民的分野「世界平和の実現」については，領土(領海，領空を含む)，国家主権，主権の相互尊重，国際連合の働きなど基本的な事項を踏まえて理解させるように留意すること。

国家間の問題として，領土(領海，領空を含む)については我が国においても未解決の問題も残されており，平和的な手段による解決に向けて努力していること，（省略）を理解させる。

①社会的事象への関心・意欲・態度	②社会的な思考・判断・表現	③資料活用の技能	④社会的事象についての知識・理解
新しい日本の建設、経済や科学技術の急速な発展と国民生活の向上、国際社会における我が国の役割の増大など、現代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究して現代の特色をとらえようとし、国際協調の大切さを考えようとする。	冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰や第二次世界大戦後の諸改革の特色について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解し、その知識を身に付けている。 我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解し、その知識を身に付けている。

４　指導計画と評価計画（16時間扱い）

時	主な学習活動・内容	・指導上の留意点　◎小中での連携を図る視点（小学校での扱い）	評価の観点 ①	②	③	④
1（本時）	〔単元の導入・単元の課題の把握〕 「時代の特色をとらえる学習」 学習の初めに課題意識を育てるための動機付け ○「戦後」「高度成長期」「現在」の写真から変化を読み取る。 ○さらに、戦後史に関する９枚の写真を提示し、時代の特色を大きくつかむ。 ○単元の課題を把握する。	・提示された写真を小グループごとに分担し、写真に関する調査・発表学習を行わせる。 ◎終戦直後の混乱の様子について学習している。「東京オリンピックが開かれ、日本はどのように発展したのか」について調べている。 今の日本はどのようにしてできたのだろうか	●			

≪提示する写真の例≫「買い出し列車」「婦人参政権」「核開発競争」「安保闘争」「沖縄返還」「石油危機」「ベルリンの壁の崩壊」「9.11アメリカ同時多発テロ」「自衛隊のＰＫＯ活動」

新幹線、高速道路、高度経済成長、環境問題などを扱っている。

2〜4	〔調査学習〕 ○小グループごとに分担した写真について調べ、発表資料にまとめる。	・文献調査、インタビュー調査、インターネットによる情報検索、資料館等の利用から情報を収集させる。	● ●	≪発表資料例≫ 1 テーマ 2 資料から分かったこと 3 現在の日本社会との関わり
5	〔占領下の日本〕	・毎時間、１グループごとの発表学習を行う。必要に応じて、導入、展開、まとめの場面で行う。 **◎戦後の改革について日本国憲法制定を中心に調べている。** **◎日本が国際復帰するまでどのようなことがあったのか調べている。** ・第 11 時〜第 13 時については中学校での新出事項であることに留意して指導する。	● ●	連合軍の占領、婦人参政権、戦後改革とその影響などを扱っている。 冷戦、朝鮮戦争、サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、国際連合復帰、産業の発展などを扱っている
6	〔民主化と日本国憲法〕 **「時代の転換の様子をとらえる学習」** 政治面などの変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習			
7	〔冷戦の開始と植民地の解放〕			
8	〔独立の回復と 55 年体制〕			
9	〔緊張緩和と日本外交〕			
10	〔日本の高度成長〕			
11	〔冷戦後の国際社会①〕			
12	〔冷戦後の国際社会②〕			
13	〔変化の中の日本〕			
14	〔よりよい未来に向けて〕 ○単元の課題についてまとめる。 戦後の民主化から始まり世界の動きと関連しながら新しい日本の建設が進められ、経済・科学技術の急速な発展により国民生活が向上し、現在の日本ができた。	**◎どんな国を目指したらよいかを考える学習を行っている。**	● ●	人権課題、沖縄の米軍基地、周辺諸国との間に抱える問題などを扱っている。
15 16	〔現代のまとめ〕 **「時代を大観し特色をとらえる学習」** 学習のまとめとして、学習した内容を活用して大観し表現する活動	・学習した内容の比較や関連付け、総合の過程を伴うよう工夫して指導する。 （６(2)のワークシート例を参照）	●	

５　本時の学習（第１/16時）

⑴　本時の目標

新しい日本の建設、経済や科学技術の急速な発展と国民生活の向上、国際社会における我が国の役割の増大など、現代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究して現代の特色をとらえる。

⑵　本時の展開

過程	学習活動・内容	・指導上の留意点　評評価	資料
導入	１　「戦後」「高度成長期」「現在」の「３枚の写真」から日本はどのように変化していったのかを確認する。 写真「闇市」 写真「東京オリンピック」 写真「東京スカイツリー」 ２　本時の課題を把握する。 戦後の日本の変化をつかもう	**・小学校で学習した「まちの変化の様子」について、「戦後の国民の苦しい生活」、「東京オリンピック」の写真を活用し、継続性のある学習になるよう留意する。** ・「３枚の写真」から「戦後〜現在」の時代のおおまかな特色を考えさせる。 ・写真ではなく当時の新聞資料を使うことも考えられる。 ・電子黒板等を活用し、効果的な写真の提示を行う。	・写真 ・年表
展開	３　戦後史の代表的な出来事に関する「９枚の写真」から、時代の特色を大きくつかむ。 写真（例）①「買い出し列車」、②「婦人参政権」、③「核開発競争」、④「安保闘争」、⑤「沖縄返還」、⑥「石油危機」、⑦「ベルリンの壁の崩壊」、⑧「9.11 アメリカ同時多発テロ」、⑨「自衛隊のＰＫＯ活動」 ４　「戦後〜現在」はどんな時代といえるのかを写真を参考に自分の言葉で書き表す。 ５　単元の課題を把握する。 今の日本はどのようにしてできたのだろうか	・第５時以降の１時間ごとの授業内容を象徴するような写真を選択する。 ・写真について知っていることを発表させる。 ・最初に提示した３枚の写真を含めて戦後の歴史の流れを概観させる。その際、年表も活用させる。 評現代がどんな時代であったのかを、写真から意欲的に読み取ろうとしている。 【関心・意欲・態度】 〈Ｂの生徒への手立て〉 日本が発展したことだけではなく、日本の課題についても読み取るよう助言する。 〈Ｃの生徒への手立て〉 ３枚の写真を中心に読み取るよう助言する。	・写真 ・年表
まとめ	６　調査・発表学習にむけて、小グループごとに「９枚の写真」の分担を行う。	・単元の学習計画を確認し、見通しをもたせる。	

６　実践の工夫と考察

⑴　小学校との連携について

小学校との連携を図る上で出発点になるのは、小学校でどのような学習を行っているのかを知ることである。小学校学習指導要領や教科書、副読本に目を通して、小・中学校７年間の社会科の学習内容と系統性を構造的に把握した。さらに、生徒の出身小学校教諭と情報交換をし、小学校での学習方法や時間をかけて指導した内容や小・中学校で繰り返し出てくる内容について扱い方の違いを確認することで、指導方法の工夫に生かすことができた。

また、中学校学習指導要領では、「各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成」するための、学習の動機付けが求められている。その際、本実践のように小学校での既習知識を生かして、その時代のイメージを表現させたり、前の時代との違いを予想させたりすることは、他の単元でも可能である。

資源やエネルギーに関する教育との関連

本実践では石油危機に関する学習を通して、資源やエネルギーに関する学習との関連を図り、日本をめぐるエネルギー資源の問題や省エネルギーの大切さについて考えさせることができる。また、第 14 時の〔よりよい未来に向けて〕において、持続可能な社会との関連で扱うことができる。

ＮＩＥ（Newspaper in Education）との関連

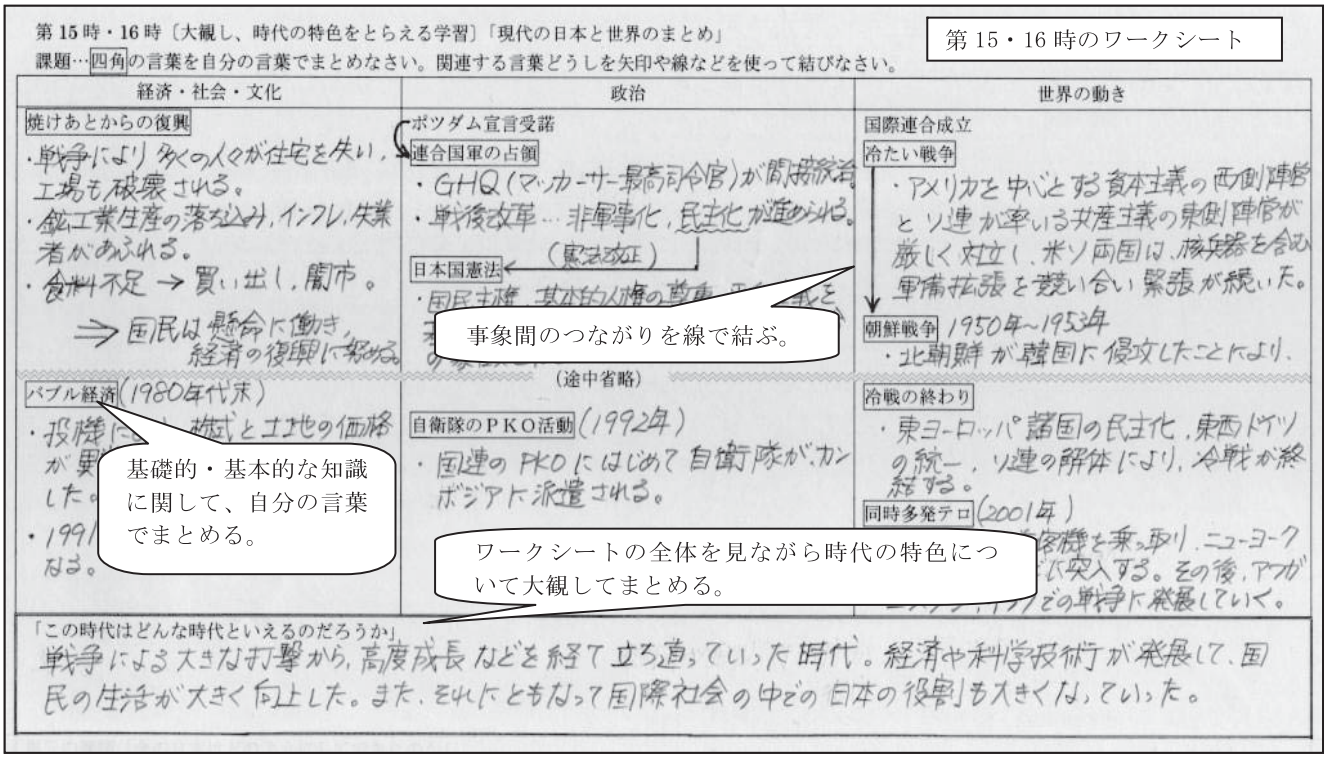
ＮＩＥは、学校などで新聞を教材として活用する取組のことである。本実践では、小グループによる調査学習の中で過去の新聞を資料の一つとして活用した。

公民的分野では直近の新聞を利用することが多いが、歴史的分野で縮刷版や重要紙面集を使い、過去の新聞を活用することができる。さらに、インターネットで電子版の地方紙や世界各国の新聞を地理的分野の教材として活用することができる。

⑵　資料について

以下の資料は、単元のまとめ（第15時･16時）で使用したワークシートの一部である。学習した内容を活用して時代を大観し表現する活動を通して、時代の特色をとらえさせることを目的としている。四角で囲んだキーワードの内容を自分の言葉で表現するとともに、事象間の関連付けなどを線で結ぶなどして考えることから、基礎的・基本的な知識の定着が期待できる。

また、単元の早い段階でこうしたワークシートを示すことで、これから行う学習の全体像をつかむことができ、見通しをもって学習に参加することができた。



⑶　まとめ

「戦後史の代表的な９枚の写真が授業や発表の中で繰り返し出てくることで、時代のイメージをとらえることができた。」「小グループの調査発表学習を行い、様々な資料を読み取ってまとめ、意見交換を重ねることで、自分の考えが深まった。」という生徒の声が多く聞かれた。また、小学校の学習内容の中でも特に時間をかけている事項を、単元の導入で活用すること、歴史の流をとらえさせる際の基軸として生徒に意識化させることの有効性を、本実践を通して確認することができた。

事例5　選挙の意義　－社会参画に関する学習の充実－

中学校学習指導要領解説では、「選挙の意義」について、選挙が「主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり，議会制民主主義を支えるものであることを理解させるとともに，良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義を考えさせる」とある。本実践では、社会参画の視点を中心とするとともに、道徳教育との関連も工夫して展開した。

1　単元名　公民的分野 (3)イ　民主政治と政治参加

2　小単元（選挙の意義）について

選挙の意義を考えさせる学習は、公民的分野内容(3)「私たちと政治」の「イ 民主政治と政治参加」に位置付けられる。この学習を展開する際には、具体的な事例を取り上げて関心を高めさせるとともに、正しい選挙が行われることや選挙に参加することの重要性について十分に考えさせることが大切である。

そこで、選挙に関する喫緊の課題である投票率の低下、特に若者の投票率の低下を論点として取り上げて模擬選挙を行うことで、選挙への関心を高め、投票率が高くならない理由や主権者として自分がどのように行動するのかを考える学習を行った。

社会参画に関する学習の充実を図るポイント

○教育基本法及び学校教育法の教育の目標から
「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その 発展に寄与する態度を養うこと」と規定された。
○社会科の目標から
「国際社会に生きる平和で民主的な国家･社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」と記載
○社会科改訂の要点から
・地理的分野…「身近な地域の調査」などの単元において
・歴史的分野…「身近な地域の歴史を調べる活動」などの単元において
・公民的分野…「私たちが生きる現代社会と文化」や「よりよい社会を目指して」などの単元において
○本実践から
将来の有権者として主体的に社会に参画する態度を養うことを目指して、模擬選挙という社会参加型の学習を展開する。
根拠に基づいた政権公約(マニフェスト)を作成する。

3　小単元の目標と評価規準

選挙が、主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを理解させるとともに、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義を考えさせる。

①社会的事象への関心・意欲・態度	②社会的な思考・判断・表現	③資料活用の技能	④社会的事象についての知識・理解
国や地方公共団体の政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとしている。	選挙の意義、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について、国や地方公共団体の政治に関わる様々な事象から課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国や地方公共団体の政治に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらまし、政党の役割、多数決の原理とその運用の在り方などについて理解し、その知識を身に付けている。

4　指導計画と評価計画(4時間扱い)

時	主な学習活動・内容	重点を置く評価の観点 ①	②	③	④
1	○我が国の民主政治の仕組みについて理解する。 ・民主政治の仕組み、選挙の仕組みと意義や課題、政党の役割など ・多数決の原理とその運用の在り方について				●
2 3	○模擬選挙の実施に向け、選挙の仕組みについて理解し、論点に対して、自らの主張を理由付ける情報を適切に取捨選択してまとめる。 ・衆議院小選挙区比例代表並立制の仕組み ・選挙に関する問題点、政党の結成 ・若者の政治への無関心の原因の追究 （政治や政治家への不信感や低投票率から、若者の意見を代弁する人が当選せず、若者の意見が政治に反映されにくい。このことで政治への不信感や無関心がさらに増すという悪循環がある。） ・政権公約(マニフェスト)の作成 ・外部講師の活用(市行財政改革推進課職員など) ・思考・判断する能力を高める学習シートの活用(思考・判断の過程の可視化を試みる) ・政策討論会 ・選挙の運営（生徒による選挙管理委員会の活動）		●	●	
4 （本時）	○立会演説会・政策討論会・模擬選挙を実施する。 ・選挙管理委員担当の生徒の主導による立会演説会・政策討論会と投票・開票実施 ・学習のまとめ	●	●		

ワークシートを工夫して、民主政治や選挙の仕組みに関する基礎的・基本的な知識・技能を重点的に習得できるようにする。

参考資料として埼玉県選挙管理委員会が作成した「中学生向け選挙啓発リーフレット」などを活用させる。

根拠に基づいた政策を作成させる手法として「５Ｗ１Ｈ＋予算」の７つの項目について検証する学習シートを活用した。

討論したり論述したりする学習を意図的に設定し、集団との関わりから自分の考えを深めさせる。

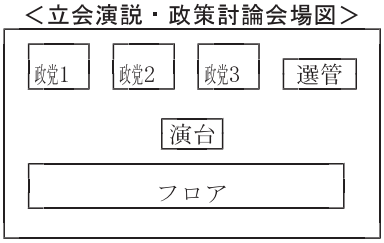
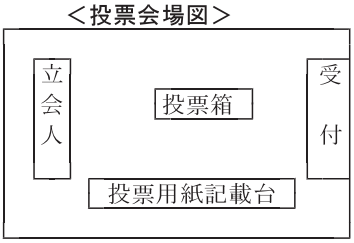
5　本時の学習（第４／４時）

(1)　本時の目標

○　模擬選挙を通じて、選挙に参加する意義と選挙の問題点について多面的・多角的に考える。

○　論理的かつ具体的なマニフェストを作成し、支持を得られるように分かりやすく政策を発表する。論理的で正しい判断のもと模擬選挙に参加する。

(2)　本時の展開

過程	学習活動・内容	・指導上の留意点　◎社会参画の視点　○道徳教育　評 評価	資料等
導入	1　本時の授業の流れを確認し、選挙の仕組みに関する説明を聞く。 2　本時の課題を把握する。 **投票率の低下している現状をつかみ、その改善策について考えよう ～改善策の検討を通して、選挙に参加する意義を考える～**	・衆議院選挙の小選挙区比例代表並立制の模擬選挙を実施する。選挙管理委員の生徒に衆議院の比例代表選挙のドント方式について、図表を用いて分かりやすく説明させる。	・各立候補者のﾌﾟﾚｾﾞﾝ資料 ・政権公約(ﾏﾆﾌｪｽﾄ) ・評価用紙
展開	3　立会演説会を行う。 ・各政党が政権公約(ﾏﾆﾌｪｽﾄ)を発表する。 ・マニフェスト型の政策決定の方法(５Ｗ１Ｈ＋予算)を理解する。 Why(なぜ・何のために)、 When(いつまでに) Where(どこで)、Who(誰が)、 What(何を)、How(どうする)、 予算(いくら・財源) 各グループの調査結果を発表する。 ・選挙管理委員会担当の生徒が進行する。	・マニフェスト型の政策決定の方法に基づいた論理的な発表を工夫して行わせる。 ・各政党の政策が実現可能であるか考えさせる。 ・政権公約(ﾏﾆﾌｪｽﾄ)の根拠を明らかにした発表を実施させる。 ・立会演説会や政策討論会は教室で行う。投票会場は空いてるスペースを有効に活用して準備させる。 立会演説会をする生徒 ＜立会演説・政策討論会場図＞  ＜投票会場図＞  	
	4　政策討論会を行う。 ・各政党の政権公約(ﾏﾆﾌｪｽﾄ)を政党間だけでなくフロアの生徒を含めて議論を行う。 ・各自の考えをワークシートに書いてから議論をスタートする。 ・各政党が先に質問を出し、それに答える。その後は、自由な討論会を行う。	・多面的・多角的な主張を踏まえて、自分の意見を発言する場面を設定する。 評 選挙の問題点について、様々な意見を聞き、多面的・多角的に思考を深めている。ﾜｰｸｼｰﾄ 【思考・判断・表現】 ＜Ｂの生徒への手立て＞複数の主張を比較し、根拠に基づいた発言となるように助言する。 ＜Ｃの生徒への手立て＞不明な点や疑問点について質問して確認する。 活発に討論する生徒	
	5　投票と開票を行う。 ・選挙管理委員の生徒が中心となって行う。 ・判断の基準は、主権者として考えて、必要性が高いか、具体的で分かりやすいか、実現の可能性があるか、独創的なものであるかを設定した。	**○投票について、自由・権利と責任・義務との関係を正しく認識し、公正に判断して権利を行使する態度を養うことは、道徳の内容４「主として集団や社会とのかかわりに関すること」を意識させるよう指導をする。** **◎立会演説会と政策討論会を踏まえて、良識ある主権者として正しい判断の下に投票を行わせる。** 投票を行う生徒	
まとめ	6　学習のまとめと感想の記入を行う。 ・投票に際して、選挙の意義を考え、どのような判断をして投票したのかを記入し、発表する。 (生徒の感想)　自分たちの考えを政治に反映させるには、しっかり準備して根拠となる事実を基に投票しなければいけないことを実感しました。	**◎投票の際に、どういう点に注意したか確認して選挙の意義について考える場面を設定する。** 評 選挙の意義について考え、積極的に選挙に参加しようとしている。 観察・ﾜｰｸｼｰﾄ　【意欲・関心・態度】【思考・判断・表現】 ＜Ｂの生徒への手立て＞立会演説会や政策討論会を通して、他者の主張を吟味した上で自分の意見を確立し、投票することの大切さを理解するよう助言する。 ＜Ｃの生徒への手立て＞投票率の低下の現状を理解する。各政党の主張の違いを理解する。自分の意見をもって投票に望むよう助言する。	

６　実践の工夫と考察

⑴　社会参画の視点と選挙の意義について

○社会参画の態度の育成は、中学校社会科学習の究極の目標である公民的資質の基礎の育成と密接に関わる。
○選挙の意義として、選挙が主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを理解させる。また、良識ある主権者として主体的に政治参加することの意義を考えさせる。
○作業的・体験的な学習を通して、社会参画の態度を養う。
・学習課題：投票率の低下、とりわけ若者の投票率の低下が進む具体的な事例を取り上げて関心を高めさせる
・手 立 て：模擬選挙の実施
…(具体的な学習活動)政党の結成、マニフェストの作成、演説、政策に関わる討論、投票、開票など

道徳教育との関連

○社会科の指導においては、その特質に応じて道徳について適切に指導する必要がある。社会科の年間指導計画の作成に際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等配慮し、両者が相互に効果を高めることが大切である。
○道徳の内容と社会科の単元との関連
(1)主として自分自身に関すること
(2)主として他の人とのかかわりに関すること
→公民(1)ｱ 現代社会をとらえる見方や考え方
(3)主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
→地理(1)ｳ 世界各地の人々の生活と環境
(4)主として集団や社会とのかかわりに関すること
→公民(3)ｲ 民主政治と政治参加
→歴史(1)ｲ 身近な地域の歴史を調べる活動

⑵　資料について

■政権公約(ﾏﾆﾌｪｽﾄ)を作成に向けた手順(ワークシート)

あいまいな公約
自分たちの主張が相手にうまく伝わらない
⇒
マニフェスト(政権公約)
自分たちの主張が相手にしっかり伝わる

■マニフェスト作成のポイント
①聞く人にとって　②具体的で　③分かりやすい

■マニフェスト型の提案作成の流れ
①現状を把握し、課題をみつける。
②これまでの取組はどうであるか調べる。
③達成目標を決める。
④具体策・解決策を考える。

■マニフェスト作成のワークシート

Ｗｈｙ (なぜ何のために)	Ｗｈｅｎ (いつまでに)	Ｗｈｅｒｅ (どこで)
Ｗｈｏ (誰が)	Ｗｈａｔ (何を)	Ｈｏｗ (どうする・どのくらい)
予算 (いくら財源)	７つの要素を考える (５Ｗ１Ｈ＋予算)	

⇩
論理的なマニフェストの完成

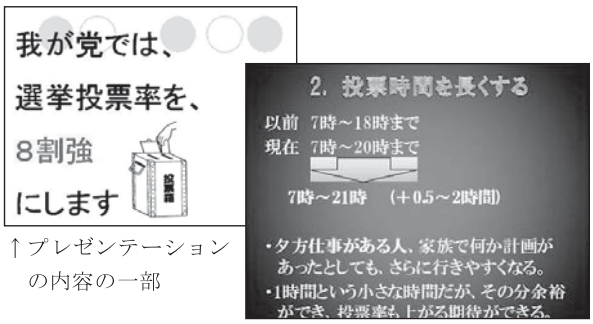
■マニフェストを評価する
①解決策の効果はあるか。　②具体的であるか。
③分かりやすいものであるか。　④実現の可能性があるか。
⑤独創的なものであるか。

⇩
政策討論会で発表・議論する立体的な授業構成

■プレゼンテーションの仕方
①模造紙等の紙に分かりやすく記入する。
②プレゼンテーションソフトを用いて行う。
※共通する点はいかに分かりやすく主張を伝えられるかである。

■自分たちの主張を実際に表現する具体例

プレゼンテーションをする生徒　→



↑プレゼンテーションの内容の一部

← 模造紙を活用して主張する生徒

⑶　まとめ

生徒の感想には、「投票率が低い理由には、候補者の主張が他の候補との違いが明確でないこともあると思う。候補者が考えを主張するには、しっかり準備して根拠となる事実を提示できるようにしないといけないことを実感した。」、「本当の選挙演説はどのように行われるのか詳しく見たい。」、「選挙の大切さが分かった。主権者として必ず選挙権を行使して自分の考えを示したい。」、「まず、政治家が国民に理解を得られる政治をして政治不信をなくし、政治への関心を高めさせるべきだ。」など様々なものがあった。この実践は、マニフェスト型の提案作成の流れに従って、５Ｗ１Ｈ＋予算の項目でマニフェストを作成することで、考えを整理することができ、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る上でも効果的であった。

事例6　世界平和と人類の福祉の増大　－作業的、体験的な学習の充実－

中学校学習指導要領では、「世界平和と人類の福祉の増大」について、「地理的分野，歴史的分野との関連を図り，その学習の成果を生かす工夫を行うこと」とある。本実践では、分野間の関連を図りつつ、単元を通したテーマを設定して作業的、体験的な学習の充実を工夫して展開した。

作業的、体験的な学習のポイント

- ○単元を通して、生徒が自ら課題を設定・追究し、発表する場を計画的に設ける。
- ○課題を追究する手法として、見学、インタビュー、野外観察や調査活動、模擬裁判などの体験的な学習の充実を図るようにする。
- ○作業的な学習では、地図や年表の読み取りや作成、新聞、読み物、統計その他の資料を適切に活用し、観察や調査などの過程や結果を整理し、報告書にまとめ、発表するなどの活動を取り入れるようにする。
- ○取組を通して、生徒が互いの成果を学び合えるようにすることが大切である。

1　単元名　公民的分野　(4)ア　世界平和と人類の福祉の増大

2　単元について

この単元では「世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには，国際協調の観点から，国家間の相互の主権の尊重と協力，各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させ，国際社会における我が国の役割について考えさせる」ことを主なねらいとしている。本実践は、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの様々な国際問題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを作業的、体験的な学習を通して理解させる。また、指導に当たっては、この中項目の内容の全般にわたって、地理的分野、歴史的分野との関連を図り、その学習の成果を生かすことに留意する。

3　単元の目標と評価規準

世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、各国民の相互理解と協力及び国際機構などの役割が大切であることを認識させ、国際社会における我が国の役割について考えさせる。また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のためには経済的、技術的協力が大切であることを理解させる。

①社会的事象への関心・意欲・態度	②社会的な思考・判断・表現	③資料活用の技能	④社会的事象についての知識・理解
国際社会の活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、世界平和の実現と人類の福祉の増大について考えようとしている。	国際社会及び我が国の果たす役割について、国際社会の活動に関わる様々な事象から課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国際社会の活動に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	国家間の相互の主権と尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際機構などの役割の大切さについて認識し、平和主義について理解を深めるとともに、国際社会における課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることについて理解し、その知識を身に付けている。

4　指導計画と評価計画（10時間扱い）

時	主な学習活動・内容	重点を置く評価の観点 ①	②	③	④
1	○地球の様々な姿から単元の課題を把握する。 ・世界地図、写真資料、統計資料などから特徴を読み取ったり、関連の深い地域を考えたりすることで様々な国際的な課題があることに気付く。 **「模擬国際会議」を開催して、様々な国際問題の解決に向けた国際社会の取組や我が国の役割を考えよう。** ・発表テーマごとにグループ分けをする。 グループはテーマごとに全８グループで編成。 ①資源②エネルギー③環境④人口⑤食料⑥紛争⑦子どもの人権⑧難民（貧困）	●		●	
2	○国際社会における国家の主権について理解する。 ・領土(領海、領空を含む)、国家主権 ・主権の相互尊重				●
3	○国際連合のしくみと働きや我が国の安全と防衛及び国際貢献について理解する。		●		●
4〜6	○様々な国際問題とその解決に向けた取組を調べ、まとめていく。 地球環境、資源・エネルギー、人口・食料、紛争・難民について ・対立と合意の視点からの調査	●		●	
7	○模擬国際会議（発表）を開催する。 ・ポスターセッションによるテーマごとの発表 ・効率と公正の視点による考察				

≪提示する資料の例≫
環境問題、ハンガーマップ、人口増加率、紛争地域、難民など南北の違いが読み取れる資料を用意する。

地理的分野(2)アとの関連で北方領土や竹島等、我が国の領土(領海、領空を含む)をめぐる問題と平和的な解決に向けて努力していることを理解させる。

地理的分野(1)ウとの関連で、アジアの人口問題、アフリカの経済、南アメリカの環境・エネルギー問題など、世界の諸地域で取り上げた事項を生かし、知識の活用を図る。

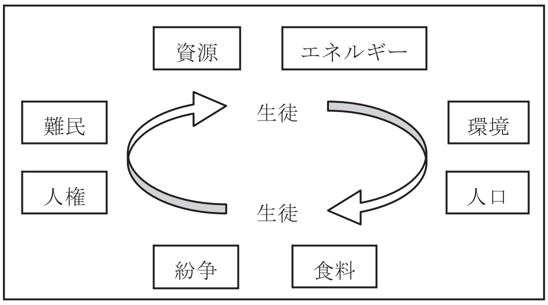
8	【展開例】 1　進行、タイムキーパーなどの分担確認、最終打合せを行う。 2　発表を行う。 1回あたり３分で８回繰り返す。グループ内で前半・後半にメンバーを分けて、全員が発表側・聞く側で参加する。 3　評価シートを記入し、グループでの反省をする。 4　問題解決のためにはどうしたらよいのかについて、発表を通して、自分の考えをワークシートにまとめる。	● 評 意欲的に参加し、発表を聞きながら評価シートを記入している。観察　【関心・意欲・態度】 ● 評 問題解決のためにはどうしたらよいのかについて、発表を通して、自分の考えを適切に表現している。ワークシート　【表現】
9 10	○前時の発表を振り返り、学級内で意見を出し合い、様々な国際問題の解決のために国際社会が取り組むべきことや我が国の役割や重視すべき項目について個人の考えをまとめていく。	● ● 歴史的分野(6)イとの関連を図るとともに、単元のまとめとして位置付け、前時の発表を振り返り国際問題に対する自分の考えをまとめさせる。

５　実践の工夫と考察

⑴　作業的、体験的な学習について

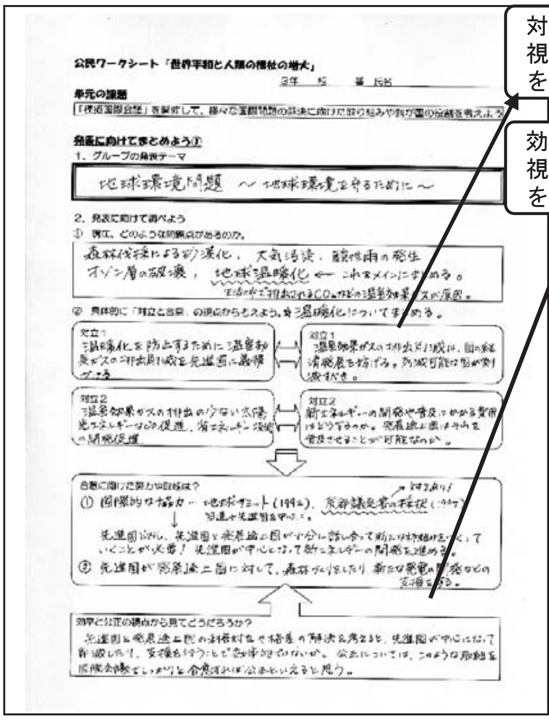
本実践では、「模擬国際会議」という設定で作業的、体験的な学習を展開した。教室全体を右の配置図のようにし各分野の発表ブースを設け、ポスターセッション形式で模擬国際会議を行った。発表を行うに当たり、１時間目にグループ分けをしておき、２時間目以降に家庭学習も利用して、自分のグループ以外のテーマについてもあらかじめ学習しておくことで、その時に疑問に思ったことなどを発表時に調べたり、聞く側も質問したりするようにさせた。作業的な学習を実施する際には、地図、新聞、読み物、統計その他の資料を活用し、問題解決のための適切な方策を考え、分かりやすくまとめ、発表させることが大切である。各発表を聞き、最終的に我が国はどの問題の解決を重視すべきかを考えさせることで、生徒は主体的に学習に参加していた。このように、単元を通した適切な課題を設け、多様な手法を用いて作業的、体験的な学習を展開することで、生徒の主体性を高めることができ、基礎的・基本的な知識の習得が図られた。

ポスターセッションの際の教室内配置図



⑵　資料について

環境問題を発表したグループのワークシート



対立と合意の視点で問題点を書き出す。

効率と公正の視点から、方策を考察する。

環境教育との関連

本実践の中で、環境問題を発表したグループは、地球温暖化について重点的に調べた。温暖化の原因とされる温室効果ガスの排出削減については、先進国の中でも意見に差があることや、経済発展を目指す途上国にとっては、環境保全と経済発展のどちらを重視すべきかが問われている。社会科の学習として、このような視点から我が国が果たすべき役割についてまとめるだけでなく、環境教育との関連として、最終的に我々が取り組めることは何かという身近な部分をしっかりと考えさせることが大切である。

対立と合意の視点を取り入れた発表例

生徒１「京都議定書で定めた温室効果ガスの排出量を日本が削減するための取組はとても重要だと思います。」

生徒２「しかしこうした取組には決してすべての国が賛成していません。なぜなら排出量を削減するということは、経済の面では生産量をおさえることにつながり、国の経済発展を妨げることになるのではないかという考えがあるからです。先進国のアメリカもこのような考えで京都議定書から離脱したと言われています。」

生徒３「各国がしっかりと話し合い、実現可能な削減目標や削減のための新たな再生可能エネルギーの開発も含めた具体的な取組を実行する努力をすることが求められています。つまり、経済的・技術的な協力が不可欠ということです。」

⑶　まとめ

生徒のまとめの記述を見ると、「世界の様々な問題を解決していくためには、日本だけでなく各国が協力しなければならない」という記述を多く見ることができた。本実践では、事前に内容を学習したうえで模擬国際会議という発表の場を設けたことで、主体的な作業的学習が展開でき、また、発表で担当した分野以外についても知識の定着を図ることができた。